

2008 年度

科目名 心理学演習 I B	対象学科・学年 人間社 3 回生	担当者 井上 徹
授業テーマ 心理学研究に利用される多変量解析の実際		
授業の概要と目標 心理検査における項目作成や、態度調査の結果分析に必要な多変量解析法を、実際のデータ分析を通して理解することを目的とする。多変量解析法について概観した後、重回帰分析、因子分析、クラスター分析、共分散構造分析、さらに数量化 I、II、III 類について、統計パッケージを用いて、実際のデータを受講生自らが分析する。それによって得られた出力結果に基づいて、それぞれの解釈のポイント、留意点を解説していく。		
評価方法 出席（30%）＋レポート（70%）		
テキスト 図解雑学 多変量解析	著者 丹慶勝市	出版社 ナツメ社
参考書 誰も教えてくれなかった因子分析	著者 松尾太加志・中村知靖	出版社 北大路書房
授業スケジュール・内容 1. 多変量解析法とは何か 2. 重回帰分析（1） 重回帰分析法の意味、調査事例 3. 重回帰分析（2） SPSS を用いた重回帰分析 4. 重回帰分析（3） 結果の解釈 5. 因子分析（1） 因子分析法の意味、調査事例 6. 因子分析（2） SPSS を用いた因子分析 7. 因子分析（3） 結果の解釈 8. クラスター分析（1） クラスター分析法の意味、調査事例 9. クラスター分析（2） SPSS を用いたクラスター分析 10. クラスター分析（3） 結果の解釈 11. 共分散構造分析（1） 共分散構造分析の意味、調査事例 12. 共分散構造分析（2） Excel を用いた共分散構造分析 13. 共分散構造分析（3） 結果の解釈 14. その他の多変量解析法 数量化 I、II、III 類 15. 多変量解析法についてのまとめ		